

自己理解力・他者理解力育成のためのMHRカリキュラム2023		関 連 す る 活 動 ・ 学 習 内 容 等											
各教科等における学び方		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	①「MHR道徳」問題解決的な学習や学校行事などの体験的な学習、実際の生活など、MHRについて考える場を道徳的価値をつなぐことにより、生徒がこれまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら考えを深め、これからに生かそうとする道徳的実践意欲を高める。その足掛かりとして、全校道徳開き「道徳 de MHR」を実施する。 ②明峰メソッドCTRの流れと連動させた全校統一の道徳シートで、生徒の道徳的価値に対する理解の変容と、これからの道徳的実践意欲を見取る。 ③道徳シートの蓄積と年間2回の「掘り起こし」の時間の設定により、道徳的価値に対する考えを深め、長期的な自己の変容に気付くことができるようにする。また、「掘り起こし」で得た気持ちを記したMHRノートを家庭に持ち帰り、道徳的価値についての考えを保護者と共有する機会を設ける。	A-(3) 向上心、個性の伸長 C-(15) より良い学校生活、集団生活の充実	B-(7) 礼儀 B-(8) 友情、信頼	A-(2) 節度、節制	B-(6) 思いやり、感謝 C-(12) 社会参画、公共の精神 C-(10) 遵法精神、公德心	D-(22) よりよく生きる喜び	A-(2) 節度、節制 B-(9) 相互理解、寛容	C-(14) 家族愛、家族生活の充実 C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	A-(2) 節度、節制 C-(15) より良い学校生活、集団生活の充実	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	C-(18) 国際貢献、国際理解 D-(22) よりよく生きる喜び	A-(2) 節度、節制	A-(3) 向上心、個性の伸長
特別活動	①MHRノートを活用し、課題意識や目標をもつことができるよう指導・援助に努める。 ②活動への取組の自己評価を基に、個を生かす効果的な指導方法や活動形態を工夫する。 ③前期・後期の目標、体育祭の振り返り、明峰祭(合唱祭)の振り返りなどは、全校統一のシートで活動を振り返る他、定期テストや長期休み、月別の行事の振り返りについても、その都度MHRノートに記録する機会を設ける。	・新任式 ・前期始業式 ・入学式 ・新入生歓迎会 ・通学区生徒会 ・生徒総会	・1年体験学習 ・体育祭	・応援練習 ・激励集会 ・あいさつdeMHR① ・アウトメディアdeMHR	・あいさつdeMHR② ・夏休み生活設計	・地域ボランティア ・夏休みの振り返り	・あいさつdeMHR③ ・小6体験入学 ・アウトメディアdeMHR ・3年修学旅行	・合唱祭 ・明峰祭 ・前期終業式 ・後期始業式 ・あいさつdeMHR④	・あいさつdeMHR⑤ ・アウトメディアdeMHR ・読書集会	・生徒会役員選挙 ・冬休みの生活設計	・冬休みの振り返り	・生徒総会 ・アウトメディアdeMHR	・3年生をる会 ・学級離散会 ・卒業式 ・修了式 ・離任式
総合的な学習の時間	①自己分析を節目に織り込むことにより、他者や自己目標との比較により自己理解を深めることができるようにする。 ②仲間と共に協力して活動したり、互いの調査結果や考えを交流したりする学習を取り入れることで、共に学び合い、高め合えるようにする。 ③フィールドワーク、地域施設の訪問活動などの地域の人々や関わる学習を通して、自分の生き方や地域のよりよい在り方について考える機会をつくる。	【第1学年 学習テーマ】 「明峰から食農の持続可能な未来を拓く」 【探究課題】 地域の食農に携わる人々や組織			【第2学年 学習テーマ】 「明峰から産業の持続可能な未来を拓く」 【探究課題】 地域の産業に携わる人々や組織			【第3学年 学習テーマ】 「明峰からふるさと持続可能な未来を拓く」～ふるさと活性化プロジェクト2023～ 【探究課題】 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織					
部活動	①各部代表生徒(キャプテン・部長)による会議を年数回実施し、各部におけるリーダーの育成及び各部相互の連携を強める。 ②必要に応じて、生徒の企画による「部活動集会」等を実施し、生徒の部活動に対する意欲を高める手立てとする。	・顔合わせ会 ・市春季大会	・PRID会議	・市総体	・吹奏楽コンクール ・県総体	・東北大会 ・全国大会	・市秋季大会 ・県秋季大会 ・PRID会議	・県秋季大会	・県秋季大会				
特別支援	①合理的配慮に基づく学びの場を設定する。 ②学習の見直しをもつことができるようにする。 ③対話的学び場面を設定する。	・新年度の抱負 < 話し合いや振り返りの場面で > ・自分の意見や考えを、友だちに伝わるように話したり、書いたりする。 ・友だちの意見や考えに対する自分の意見や感想を、話したり書いたりする。											
国語	①課題意識や学習の見直し、身に付けたい力を明確にするために、生徒の「問い」や知的好奇心を生かした課題を設定するなど、導入を工夫する。 ②「灯火タイム」での話し合い活動の充実のために、他者との考えの共通点や相違点を基に比較・関連を通して対話したり、練り合ったりする場面を設定する。	< 話し合いの場面(灯火タイム)で > ・聴く姿勢の意識向上推進→ハンドサインなど ・生徒の意見を意図的に拾うコーディネーター。 ・自分と他者との考えを比較し、関係を明確にした話し合いの工夫			< 振り返りの場面で > ・他者の発言のどこが自分の意見構築に役立ったのか、また、学びの深まりにつながったのかを明確化。								
社会	①生徒の疑問や予想を引き出し、そこから課題が生み出されるような導入を工夫する。そのために前単元あるいは小学校時に習得した知識や概念をつないでいく。 ②個々の考えをしっかりと話し合いを行い、他者の考えを取り入れて自分の考えを再構築することにより思考を深め自他を理解する力を高めていく。	・自然災害と防災		・現代社会の見方や考え方 「対立と合意」	< 通年 > ・毎時間「輝らし」と「更に」からの視点から振り返りをする。 「輝らし」:自分や他者のよさに気付く 「更に」:前向きに次へつなげる					・地域の在り方 ・地球社会私たち	・持続可能な社会		
数学	①本時のねらいを明確にし、ねらいを達成するための比較・検討の視点や方法を工夫する。 ②生徒の反応や振り返りの内容等から、次時へつながるものを紹介したり、新たな問いを取り上げて共に考えたりする雰囲気醸成する。	< 話し合いの場面(灯火タイム)で > ・自分ほどまで分かっているのか、何に困っているのか。 ・友人はどのように考えたのか、自分と似ているのか異なるのか。 < 振り返りの場面で > ・人によって見方や考え方が異なることに気付く。 ・分かったことやできたことを実感し、自身の学びや変容を自覚す											
理科	①目的意識や見直しをもち、問題解決の方向性について自分の考えをもつことができるように、達成すべきゴールを具体的に示す。 ②タブレット端末等を活用し、自分の考えを他に発信するとともに、様々な考えに触れることで考察を深め、妥当性を検討することができるように、灯火タイムの形式を工夫する。	←			1年生 問題発見・課題作りで自分の考えをもち、多様な考えがあることにふれる学習活動。							→	
		←			2年生 分析・解釈する場で多様な見方、考え方に基づいて探究することができる学習活動。							→	
		←			3年生 振り返り・リトライで互いの考えの妥当性を検討し合う学習活動。							→	
音楽	①新たな音楽との出会いの場、または前時のReflectionにおける生徒の言葉をつないで、授業のめあて、授業のゴールを導く。 ②自分ほめあてをどのくらい達成できたか(自己理解)、友達との関わりから学んだことはなにか(他者理解)の双方を振り返ることができるようにする。	< 通年 > ・合唱活動におけるリスナーチェックとアドバイスタイム ・鑑賞学習におけるトリオトーク&スピーチ					・合唱祭に向けたバディー練習	・合唱祭					
美術	①自分の思いを大切にしながら構想を練り主題を設定し、創造的な表現へとつなげるため、学習シートおよびポートフォリオの活用を充実を目指す。 ②小グループでの鑑賞や、全体での鑑賞活動を通して、自分とは異なる表現のよさや工夫を感じ取り、イメージを広げ、多様な表現技法を基に学びを深めることができるようにする。	・自分をみつめて(表現) ・部活動紹介ポスター	・名画鑑賞①	・「横手の魅力」のデザイン ・身近なモノと遠近法	・自画像の制作 ・様々な描画方法	・名画鑑賞②	・学校祭関連制作 ・点、線、面の構成			・環境への配慮と提言	・感謝のデザイン	・MHRホール関連デザイン	
保健体育	①3年間の系統性を考えて指導内容を精選するとともに、単元の終末に「する・見る・支える・知る」の視点で振り返りを行うことで、自己の良さや成長に気付くことができるようにする。 ②仲間との関わり合いの中で仲間の良さや頑張りを認めたり、仲間の有り難さを実感したりできるような場面を意図的に設定し、掲示するなどして視覚化する。 ③体育祭に向けた練習時の異学年での交流場面や、授業中でのバディーチームの関わりを通して、お互いを支える経験ができるようにする。	陸上競技:トリオでの教え合 ・陸上競技 ・体育祭に向けたバディー練習 ・バディークラスタイム	球技:兄弟チームで分析 ・球技(ソフト型) ・球技(ソフトボール型)	球技:兄弟チームで分析 ・球技(ネット型) ・球技(ソフトボール型)	器械運動:補 ・器械運動 ・個人の健康を守る 社会の取り組み	柔道:受と取、アドバイザー ダンス:自分と違う動きを認める 球技:兄弟チームで分析	・柔道 ・ダンス ・球技(ネット型) ・生活習慣病などの予防	球技:ペアやトリオでの教え合 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康					
技術・家庭	①仲間との関わり合いの中で、自己の良さや頑張りを実感したり、仲間の良さを認めたりする場面を意図的に設定する。 ②ペアやトリオ学習、グループ学習など、課題をより発見しやすく、教え合い学び合いが可能な学習形態を意図的に積極的に設定することで、自分の考えを一層広げたり深めたり、また共に高め合うような学びが力へとつなげていく。 ③課題解決への見通しがもてるようめあてを設定する。	・自分の成長と家族 ・プロフィールカードの作成	・環境に配慮した消費生活 ・PPTプレゼンの作成 木材の利用 いろいろな発電 SNSの使い方			・防災講習会	・安全で快適な住まい ・幼児との触れ合い						
英語	①学習過程を明確にし(めあてとゴール)、主体的で必要感のある学習につなげていけるよう、導入を工夫する。 ②積極的に自己表現ができるように場面を設定し、互いに伝えたり、聞いたりする場面(灯火タイム)を意図的に設定する。 ③与えられた課題に対する自分の意見や答えを考えるためのThinking Timeを十分に設ける。	< 全単元 > ・プレゼンや発表時の温かい拍手とリアクション ・聞き手のことを考えた声量・話し方			○相手を尊重した態度を養う ・自分の考えや表現方法と友だちのものを比較し、自分の考えに取り入れる。 ・インタビューなどの活動では男女分け隔てなく接するよう働きかける。 ・スピーチ原稿などを互いに読み合い、コメントや助言を添えて返す。 ・自国の文化はもちろん、諸外国の文化にも興味をもつ。								